

運動+学習+栄養の3つの療法を通じて 子どもたちの才能を最大限に発揮させる デイサービスを開設

——池田美幸さん(「児童発達支援・放課後等デイサービス
キッズプレイスタかなわだい」運営、看護師・39歳)

池田美幸さんの長男は、2歳のときに発達障害の疑いがあると診断されました。実はその1年前から、池田さんは長男の行動に違和感を感じていたそうです。例えば1歳を過ぎても言葉が話さない、公園に行っても友達と遊ぼうとしないなど。もしかしたら……? そんな思いでいた矢先、発達障害の疑いと診断され、療育センターに通うことになりました。そこで受けた検査の結果、社会性と言語分野で生後10カ月程度と診断されたのです。「ショックと共に長男の将来に不安を感じました。それでも親としてできることは全てやろうと覚悟しました」。

池田さんは、療育センターに長男と通うと共に、栄養療法と体内に蓄積された重金属を排出するキレート療法に取り組みました。1年経ったころ、徐々に改善していることに気づいたそうです。「言っていることがわかるようになったり、人に呼ばれると返事をするようになった。コミュニケーションを求められるようになったんです。そこで療育センターから保育園へ転入し、お友達とのコミュニケーションを取れる環境を作りました」。池田さんが講じた策が功を奏し、2年後の検査でIQ 90以上に改善していることがわかりました。「2歳で10カ月程度でしたから大きな進歩です。これなら小学校でもやっていけると思います、地域の公立小学校に進学を決めました」。池田さんは今まで関わってくれた先生に感謝していると話します。「理科の授業では生き物が大好きな息子に質問をし、答えさせてくれるんです。普通の子よりも劣っている点に目を向けるのではなく、長男が輝ける場所を作ってくれたことが嬉しかったですね」。

周囲の協力を得ながら成長する長男を見ていた池田さんは、自分も障がい児童を支援したいと思うようになりました。「どんな子どもにも大きな可能性があるとわかったから。その可能性を引き出すことが、私の役目だと思いました」。

池田さんは、支援の方向性を探る中で、運動・学習・栄養療法を1カ所で行う施設がないということに気づいたそうです。池田さん自身、別々の施設に通っていたからです。「早期療育のためには、運動・学習・栄養の3つを組み合わせることが大切なんです。だから総合的に行える施設を作ることにしました」。昨年7月、クリニックを併設した「児童発達支援・放課後等デイサービス キッズプレイスタかなわだい」を開設しました。池田さんはこう話します。「長男のためにしてきたことを、次は障がいを抱える子どもたちのために、可能性を引き出す支援をしていきたいと考えています」。



1~3.デイサービスのコンセプトは、「子供達が生まれながら持っている才能と可能性を最大限に発揮させる!」。2つ以上の違う動きをする運動や、LEGO®を使った学習を組み合わせています。



3

4.池田さんご家族。5.生き物が大好きな長男。小学校入学前から恐竜や生き物の図鑑を眺めていたそう。6.医師である父の診断と処方の下でサプリメントを服用しています。デイサービスでも食事・栄養療法として取り入れています。



5



6